第31回大磯町まちづくり審議会　会議録

日　時：令和７年８月６日（水）午前10時00分～11時50分
場　所：大磯町役場本庁舎４階第２委員会室
出席者：８名［松本　会長、中井副会長、桑原　委員、鈴木　委員、
　　菊田　委員、工藤　委員、平田　委員、山口　委員］
欠席者：２名［志村　委員、谷口　委員］
傍聴人：４名
資　料：大磯町まちづくり基本計画の中間見直しについて
　　大磯町まちづくり基本計画の中間見直し（素案）について
　　・第２章見直し後の全体構想
　　・第３章見直し後の地域別構想
　　新旧対照表
　　中間見直し工程表

○会長・副会長の互選
・会長に松本委員、副会長に中井委員を選出

１　開　会
　会長挨拶
２　議　題
（１）大磯町まちづくり基本計画の中間見直し（素案）について

　事務局から資料にもとづき説明

【会長】
大磯町まちづくり基本計画は、神奈川県が平成12年に都市マスタープランをスタートさせた直後の平成13年に都市計画区域の決定をし、まちづくり基本計画は平成18年に策定した。都市計画よりももっと領域の広い計画で、都市計画法以外のまちづくりを包含し、議会の議決を経て決定されることが大磯町まちづくり条例に定められている。
４年前に町民の皆さんと専門家でよく話し合い作り上げた計画であることを念頭に、本日議論したい。またスケジュールとしては、次は年明けの案で参加できるスケジュールになっている点は本日の議論になるかもしれない。

また、工程表に原案は資料提供により意見を聞くとあるが、具体的にいつ頃を予定しているのか。住民説明会の結果が反映されたものか、それがないものか。

【事務局】

原案については、原案の公告縦覧で住民にお示ししているものと同じものを委員の皆さんにお示ししたいと考えている。時期は 10 月 15 日から 11 月 11 日を公告縦覧の時期として考えているので、10 月 15 日頃送付予定。

【会長】

事務局に直接意見や質問を聞けるのは今回の会議が最後になるので、それを踏まえて意見などお願いします。前回３月 12 日の会議で良い意見がたくさん出たので、それらがどのように反映されているのかわかる資料があればよかった。これではどこに反映されているのかわかりづらい。

それでは、本日欠席されている委員から事前にメールで質問をいただいたので事務局に回答をお願いしたい。質問１として、7 月 30 日のカムチャッカ地震による津波対応について、町の避難状況と本計画に反映すべき事項の確認。質問２として、八潮市の下水道事故のような社会基盤の老朽化に関連し、老朽化した公園など住民目線で見えるところ以外は弱い印象だが、社会基盤の老朽化問題にどう向き合うのか。質問３として、オーバーツーリズムや海外資本による投機などの問題が大磯に波及することがないよう、どのような手立てが必要か常に考える必要がある。以上３点について事務局から説明を。

【事務局】

質問１について、７月 30 日は概ね 300 人の避難者がいた。海水浴場からの避難者など、町外からの観光客も含まれていたと聞いている。地域防災計画に基づく対応をした。今後、危機管理対策所管部署による検証により、必要があれば本計画に反映する。

質問２について、社会基盤の老朽化であるが、道路や橋梁については計画にすでに記載のとおり維持を図るものである。御指摘の上下水道について、上水は県の管理。下水道については、平成以降に整備を開始しており、整備中である。耐用年数は一般的に 50 年といわれており、老朽化までまだ時間があるものと考えている。

質問３について、町としては、観光をマスではなくミニマムなものをもともと目指し、オーバーツーリズムの回避を目指している。オーバーツーリズム対策を意識した視点は現在の計画に記載済みであり、過密でも過疎でもなく適度にゆとりがある街づくりである「適疎ににぎわうまちを目指す」という言葉で記載している。

【委員】

国がやるべきこと、県がやるべきこと、それぞれの役割を明確にすることも必要。

〇質疑

【委員】

⑤町のブランドを「守る」「育む」「創る」について、「ブランド」という表現が気になる。今どきこの表現でいいのか。歴史や文化でブランド化という意図はわかるが、輝かないのではないか。

【事務局】

芸術による町のブランド化を改めて追記したい意向である。

【委員】

町のブランド化は、言い換えが難しい。シビックプライド、価値などの類義語があるがニュアンスが異なるか。

【事務局】

文言については、今後検討したい。

【委員】

人口減少については、全国的な傾向であり、若年層の人口の取り合いとなる。その中で高齢者対策が目につき、子育て世代の呼び込みが見えてこない。

【事務局】

今年度は、大磯町空家等対策計画の改訂作業を行っており、子育て世代を含め、移住定住に繋げたい施策を記載している。まちづくり基本計画にも反映していきたい。また、市街化調整区域における地域活力回復型の地区計画を地域住民が主体となって検討しており、市街化調整区域へ子育て世代など新たな人口の呼び込みにつながるものと考えている。

【委員】

「町のブランド化」は枠組みでよいのか。アートイベントなどと記載されているが、具体的な施策が見えてこない。

【事務局】

今後、新たなアートプロジェクトなども考えているが、具体性が未定のため、現状では未記載となっている。

【委員】

人口減少の抑制については、現在、「関係人口」を増やして移住に繋げるということが重視されている。町の総合計画を見たところ、「関係人口」という言葉が一切出てこない。総務省も使っている表現なので、「関係人口」の表現をするべきではないか。

【事務局】

今後検討する。

【委員】

まちづくりと住民、関係人口の交流については積極的に記載した方が良い。

【事務局】
　都市計画審議会においても、同様の指摘を受けている。総合計画の記載と調整しながら検討したい。
【委員】
　人口減少であるとのことだが、自然減が多いのか、社会減（流出）が多いのか。
【事務局】
　社会増もあったのだが、それを上回る自然減の状況にある。
【委員】
　国内全体でみてみると、2021 年から人口、世帯数ともに減少に転じている。世帯数だけが増加しているのは大磯の特性と考えられるので、その状況への対応が必要となる。
【事務局】
　独居の高齢者世帯の増加とみており、高齢者対策を行う必要があると考える。
【委員】
　空き地や遊休農地の管理活用について、新規営農者の呼び込みなど町の対策を記載した方が良いのではないか。
【委員】
　遊休農地については、所有している農家が農地という財産をどうしたいかという、個人の財産なので言及は難しいと思う。計画には記載しない方が良いのではないか。
【委員】
　空き地に関して、西会津地域で遊休農地を区画整理によって、所有者が地元を離れた土地を農地と住宅にエリアに分けて整理している。大磯町ではできないのか。
【委員】
　大磯町では、傾斜地が多いので、一概に区画整理事業で解決できるものではない。
【委員】
　住宅地の空き地については、住環境の悪化の課題がある。市街化区域と市街化調整区域では状況が異なるので、住宅地の空き家については所有者の管理義務のコメントを掲載する必要があるのではないか。
　石神台などの地域特性はあるのか。
【事務局】
　下町エリアの人口密集地といった特性はある。石神台など、その他のエリアでの特性は見受けられない。
【委員】
　地域別構想について、計画の運用の仕方について、進行管理についての言及がないが。

【事務局】
今後検討する。
【委員】
地域別構想について、行政だけでできることに限りがある。公共空間やコミュニケーションの場が重要になり、まちづくりと住んでいる人と関係人口の交流の場として、公園など移動販売や河川敷や港の活用をするなど、今までとは異なったイベントに使うなど、民間事業者を入れて考えた方がよい。移住者の転入による社会増を目指すためのまちづくりを行う必要がある。真鶴町の「まちなーれ」は地域住民と企業が参画して文化芸術振興活動を行っており、また「真鶴美の基準」（真鶴町まちづくり条例の一部）などまちづくりの参考になるのではないか。
【事務局】
今後検討していきたい。
【委員】
自然環境保護法に関して、生物多様性の文言や大磯らしい生物多様性などがあれば入れても良いのではないか。
【事務局】
環境所管課に確認する。
【委員】
大磯のブランド化について、今年は大磯の海水浴場は開場 140 周年だが、同時にお茶屋と呼ばれるいわゆる海の家がなくなった。オープンガーデンについては、90 年前に徳川家、樺山家といった町内に別荘を構えていた名家が集まって開催した経過がある。
【委員】
町内の南北道路について、ＪＲの線路をほとんどがアンダーパスで通る。昨年の大雨のような浸水災害の対策が気になる。
【事務局】
道路所管課に確認する。

【委員】
事務局から今後のスケジュールの説明を。
【事務局】
まちづくり基本計画素案については、本日の資料を８月末から９月にかけて４週間公告縦覧する。住民からの意見を募集し、また本日の委員の意見などをまとめて、10 月に原案として御提示する予定。その際は、資料を御送付させていただくので、意見をいただきたい。

【会長】

本日の議事は全て終了。これにて第 31 回大磯町まちづくり審議会を終了する。

以　　上